

船橋

田端友康

海老川

海老川は船橋市の中央を流れる川。

御滝不動尊の湧水を水源としていて、夏見総合運動公園の脇、船橋市中央卸市場内を通り、国道14号・京葉道路・湾岸道路を跨ぎ、東京湾三番瀬東部に流れ、全長7.46km。

市街地を流れる海老川は都市化とともに水質が問題視された。1990年建設省の「ふるさとの川モデル河川」整備計画に認定され、1995年建設省指定の水循環再生の必要性が高いモデル地域（現在全国6流域）となっている。地下水の涵養・地盤沈下防止や公園緑地の保全、多自然型川づくりなどが掲げられ、合併処理浄化槽や雨水浸透ますの普及、道路の透水性舗装推進などに努めている。また、水量減少への対応策として、印旛沼流域の下水道高度処理水を還元する試みも行われ、週2回8時間の放流することにより、水質向上の改善がみられている。

■ 河口から



東京湾の三番瀬の最東部に流れ込んでいる。JR京葉線と湾岸道路を潜る「ららぽーと」脇が河口。ららぽーと側は船橋港親水公園となっており対岸の船橋港を望むことができる。船橋漁港は東京湾ないの魚・アサリなどの貝類・海苔の漁船が並んでいて、最先端の製氷施設を備えている。漁港内には特産物の販売所「みなとや」でお土産を買うことができる。



漁港の外周は高いコンクリート塀で囲われ、止水門があり、川には水門がある。昨年の台風の際は、止水門と水門を閉じ高潮を防いだ。水門のポンプも近年老朽化から取替を終えていて活躍した。



水門の内にも船着場があり、主に海苔・アサリ用の船が停泊していて、生活感のある風景となっている。京葉道路高架下はアサリ採りのカゴが保管され、川沿は迫り出すように道具小屋が並ぶ漁師町。少し上流に進と国道14号に当たる。この辺りが埋め立て前の海岸線となり、14号にかかる橋下にはアサリやホンビノスの加工場や周辺には海苔の加工場などが点在する。

14号を過ぎるとこの辺も私が通勤していた頃は多雨の度に浸水した様子が電車から見えていたが、水面と地盤が同じか低い地域となる。現在は先ほどの水門と治水により改善された。その先は多くの橋が続くが、船橋駅前の本町通りの端にある船橋大神宮側にかかる橋が「船橋」の名前の由来を記した碑文がある。訪れて確認してみたい。

その船橋大神宮（意富比神社）は朝廷・将軍家などから崇敬を受け、平将門、源頼朝、徳川家康などが社領の寄進や社殿の造営・改修をおこなった。神宮の境内にある常盤神社には家康の歯を納めた家康



(大神宮本殿)



(灯明台)

木造が安置されている。近代では明治天皇、大正天皇、昭和天皇などの歴代天皇も参拝に訪れている。県指定有形民俗文化財の灯明台もあり、是非訪れていただきたい。

そして、そこから船橋駅に向かう途中にある「日本一小さい東照宮」にも立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



(船橋東照宮)